

●本書「序論」より

本書が対象とする第一次世界大戦後から昭和恐慌期にかけての時期は、さまざまな問題をはらんだ近代日本のなかでも、いちだんと特徴的で深刻な問題をもった時期であった。

日露戦後から第一次世界大戦期にかけて、いわゆる「大正デモクラシー」が生成・高揚してきた。大正デモクラシーとは、私見によれば、明治国家のもとでミニマムに縮小されていた民衆が、政治、経済、社会生活、教育・文化等々の幅ひろい領域で、自己の存在を主張し、国家体制・社会体制を民衆本位のものに組みかえようとして展開した思想と運動である。それは、日露戦後に萌芽し、ほぼ満州事変あたりで終息しており、大都市から地方中小都市・農村にいたるまでの被抑圧層から中間層にかけての人のびとをにない手とするものであった。

その大正デモクラシーがピークに達したのが、第一次世界大戦後のことであった。……

すなわち本書が対象とする時期は、第一に民衆がさまざまなレベルでの自己実現の可能性を追求し、一定の成果をあげたことと、第二にそれがごく短い期間で解体し、デモクラシーがもとめる方向とまったく逆の方向へつき進んでいったという二重の意味で大きな意味をもち、かつ大きな問題をはらんでいるのである。したがって、その歴史過程と、そこにはらむ問題を、都市以上に日本の近代化の矛盾を背負い、かつ民衆の主要な生活の場であった農村社会「地域社会」の状況にそくして説明することは、近代日本の民衆の歴史を考える場合に、なお大きな意味をもっているというのが、本書の前提となる認識である。

●関連図書のご案内

農村青年「稲垣稔

——大正デモクラシーとへ土の思想

岡田洋司 著

●四六判・上製・三六四ページ

●定価「本体二、二〇〇円十税

ISBN4-8350-4139-9

愛知県三河地方に生まれ育った稲垣稔の青年時代は、「大正デモクラシー」期の中で、「疾風怒濤」の青春であった。「三河の百姓」として一生を貫いた稲垣稔の青年時代を、日本近代史の中で描く。

あかき こいし
清明心「復刻版」全五巻・別冊一

●稲垣稔編／稲垣恒夫監修

●大正一年「昭和七年刊

●別冊「解説(楠本雅弘)・資料編

●B5・B6判・上製・函入・総一、八二〇ページ

●揃定価「本体三五、〇〇〇円十税

ISBN4-8350-4132-1

稲垣稔らが起こした全村学校運動の機関誌。常に大地に足をつけて、みずから納得できる社会改良をめざした運動とそれを支えた彼らの思想は、農業・農村にある特定のイデオロギーを押し付けようとするやりかたとは異質のものであり、真に村づくりを考え、みずからの主体的思想基盤を構築しようとする運動者に大きな示唆を与えるものである。

大正デモクラシー下の「地域振興」

愛知県碧海郡における非政治・社会運動的改組構想の展開

第一次世界大戦後から昭和恐慌期にかけて、

愛知県碧海郡一帯で展開した

「地域振興」の動きを説明し、

この時期の農村社会「地域社会」の民衆の意識・行動を検証する。

岡田洋司 著

A5判・上製・函入・四四四ページ
定価「本体九、〇〇〇円十税」●一九九九年一〇月刊行
不二出版



愛知県立農業補習学校(安城町)の実習風景

●表示価格は全て税別

不二出版

〒113-0033
東京都文京区向丘1-1-11
TEL 03(3811)4433
FAX 03(3811)4464
振替 001601194084

●目次

序論 課題と視角

- 1 対象
 - i 愛知県碧海郡の概観と前史
 - ii 碧海郡の農村と農業構造——「日本デンマーク」の形成
 - iii 日本デンマークと「大正デモクラシー」

Ⅱ「国体論的価値意識」とその相対化

第一次世界大戦期碧海郡の農村の社会状況と民衆意識

- (1) 悠紀斎田点定と基調としての国体論的価値意識
- (2) 第一次世界大戦とその波紋
 - i 国力への不安
 - ii 浮華・惰弱への批判——實業剛健
 - iii 在郷軍人会と青年会

- (3) 「戦後経営」と大正デモクラシーとははさまで
 - i 戦後経営と地域振興の萌芽
 - ii 国体論的価値意識の相対化

Ⅲ「地域振興」構想の形成と展開

- 1 農業技術岩槻信治における稲の改良と農村社会の発展
 - i 米の増産をめざして
 - i 神力の改良と愛知旭
 - ii 農事知識の「啓蒙」と農業生産の改善
 - (2) 農業・農村の沈滞に抗して——要諦の思想
 - (3) 農村恐慌、戦時体制下の増産構想
 - i 千本旭と「稲作実察論」
 - ii 農村恐慌から戦時下増産へ

- 2 産業組合指導者岩瀬和市における地域振興の形成と展開
 - (1) 古井産業組合の設立と岩瀬和市
 - i 岩瀬和市とその生い立ち
 - ii 古井産業組合の設立と古井産業組合
 - iii 岩瀬和市と古井産業組合
 - (2) 古井産業組合の発展と地域振興
 - i 非大正デモクラシー的、あるいは非政治社会運動的改革の途
 - ii 古井産業組合の発展と「汗愛主義」

- (3) 丸碧「碧海郡購買販売組合連合会」の発展と地域振興
 - i 丸碧会長として——米穀販売の革新と稲垣稔の促進
 - ii 更生病院の設立と地域振興
 - iii 「銃後農村」下の地域振興

Ⅳ 地域振興の主体としての農業・農村教育

- 1 地域振興の主体としての農業補習教育
 - (1) 碧海郡における農業補習教育の形成——安城町の場合を中心として
 - (2) 農業補習教育の内容・実態
 - (3) 農業補習教育と地域振興
 - i 農業補習教育の実態と「実用」「実践」への視点
 - ii 地域振興の主体として
 - (4) 農業補習学校から青年学校へ

- 2 全村学校運動の論理と展開
 - (1) 修養団運動から全村学校へ
 - (2) 全村学校の概要とその背景
 - i 開墾地
 - ii 講師・受講生

- (3) 「農村自治」と「農」の価値化
 - i 地域振興策としての自治——農村自治
 - ii 「農」の価値化と「生」の模索
 - iii 農業の改善、生活の改良
- (4) 反近代的人間形成の模索
- (5) 全村学校から農道講習会へ——全村学校の解体

Ⅴ 地域振興における政治・社会運動の位相

- 1 農村社会運動としての修養団運動の論理と実態
 - (1) 前提——修養団運動の生成
 - (2) 修養団愛知県支部の成立
 - (3) 運動の本格化——修養団式講習会と修養の原理としての汗愛主義
 - i 修養団碧海郡支部の成立
 - ii 修養の原理としての汗愛主義
 - iii 修養団式講習会と修養団の活動
 - (4) 農村文化講習会と持ち場からの改革
 - (5) 教化団体化と碧海郡における運動の衰退

- 2 山崎延吉の第一回「普通選挙」立候補をめぐる
 - (1) 山崎延吉立候補問題の生起
 - (2) 第一次世界大戦後における山崎延吉の「政治化」
 - (3) 選挙運動の展開
 - i 背景としての西三河の政治状況
 - ii 山崎延吉の政見・政策と選挙運動
 - (4) 当選後の山崎延吉
 - i 選挙の結果
 - ii 議会政治・政党政治への失望とそこから離脱——山崎延吉の政党政治観

Ⅵ 地域社会と女性

碧海郡安城町処女会、女子青年団の活動を通じて

- (1) 処女会、女子青年団の概要
- (2) 処女会から女子青年団へ
 - i 前提としての処女会
 - ii 女子青年団の組織
- (3) 指導理念としての「婦徳」修養
 - i 「婦徳」修養と「国家社会へのコミット」——地域社会のにない手として
 - ii 背景としての女性主体の形成
- (4) 女子青年団と地域社会の改善・振興
 - i 「生活」への視点と生活改善
 - ii 農村恐慌の本格化と地域労働の主体として

Ⅶ 大正デモクラシー下の「非大正デモクラシー」的「自己形成」

農村青年稲垣稔における「自我の拡充と相対化」

- (1) 「農」を選び取るまで——野田の百姓と地域社会からの出離願望
- (2) 「生命の活躍」「おどる生命」——稲垣稔の自我拡充
 - i 「生命」の自覚
 - ii 雑誌「清明心」と表現意欲の高揚
 - iii 農村文化講習会と学習意欲の高揚
- (3) 自我の相対化
 - i 大正デモクラシー下における自我の相対化
 - ii 稲垣稔と「私」

Ⅷ 未完の地域振興

農村恐慌、日中戦争下の碧海郡安城町の社会状況と民衆意識

- (1) 対象と史料
- (2) 農村恐慌と満州事変
 - i 未完の地域振興
 - ii 勤儉的価値意識の強調
 - iii 満州事変の勃発
- (3) 持続する地域振興
 - i 農村計画の実現
 - ii 「よき生活」をもとめて
- (4) 「精神」の浮上と日本精神
 - i 「物質」への懐疑と宗教の活性化
 - ii 日本精神の定立
- (5) 非常時への旋回
 - i 多角形農業への疑念と工業化の進展
 - ii 「非常時」銃後の農業——実体を失う地域振興

●弊社は注文制です。お近くの書店へご注文ください

●発行所

不二出版

〒113-0023 東京都文京区向丘1-2-12
 TEL 03-3812-4433
 FAX 3812-4464

注文カード		冊数	
帖合・貴店名		冊数	
摘要		書名	
大正デモクラシー下の「地域振興」		ISBN4-938303-96-5 C3020 ¥9000E	
発行所		著者名	
不二出版		岡田洋司	
価格=本体9,000円+税		注文	
年 月 日		住所氏名	
様			